

# 令和2年度 事業報告

## I 総合的な取り組み

### 1 地域福祉

#### (1) 支えあいの地域づくり

令和元年度から市担当課職員と共に、各区を訪問し地域サポートセンターの取り組み状況や実情の把握を行いながら、地域での見守り体制づくりについての働きかけを進めてきた。

地域への訪問や研修会など重ねる中で、地域での見守り体制を構築して行こうという地区も出てきたが、新型コロナウイルスの影響により、年度当初は地域での活動はほとんど行えず、各区への訪問も出来ない状態が続き、地区の活動も中断となくなってしまった。

新型コロナウイルス感染症の落ち着きを待ち、6月から各地区の訪問を再開し地域活動の現状の把握を行ったが、度重なる感染拡大の影響を受け、一年を通して目標とした活動がほとんどできなかった。

一年を通して限られた活動ではあったが、地域の方々の意見などを聞く中で、日頃当たり前に行っていた活動ができない、何気なく集まっていた仲間とも会えない状況が続き、改めて日頃の活動の大切さや近隣住民での支えあいの大切さを実感した年でもあった。

また、コロナ禍ならではのニーズへの対応として学校の消毒ボランティアなどにも取り組み、多くの地域の方々にもボランティアとして参加いただくなど、学校と地域とがつながる機会となり新しい支えあいの活動も見えてきた。

#### (2) 地区社会福祉協議会活動の推進

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、各地区では会議も開けない状況となっていたが、緊急事態宣言解除を機に、市社協では感染対策と地区社協活動の両立にむけての留意点等を示すとともに、専門家によるコロナ対策の研修を行い活動再開に向けた準備を行った。

また、感染対策のための仕出し弁当を利用した配食に対し助成額の見直しを行なうなど、閉じこもりがちになっている高齢者等への安否確認、見守りの再開を各地区に呼びかけ、6月～7月の2か月の間に17地区が配食を実施することとなった。

地区社協では、予定していた高齢者の会食会などの活動ができなかったものの、友愛訪問やお弁当の配食などで家から出られない高齢者宅への声掛けや安否確認を行い、大変喜ばれ、人とのふれあいの大切さを実感したなど、日頃の活動の大切さや配食や友愛訪問の本来の目的を改めて感じたといった声も多く聞かれ、コロナ禍の制約の中にあっても充実した活動となった。

#### (3) 地域福祉計画と地域福祉活動計画策定への取り組み

岡谷市の地域福祉計画の策定に合わせ、岡谷市の地域福祉の更なる向上に向けて、行政と社協が連携して地域づくりを進めるための想いや方向性、理念等の共有する部分をどの様に整理して市計画に記述、表現して行くか調整を進めてきた。

岡谷市地域福祉計画と分野別4計画の改定のための岡谷市地域福祉支援会議に社協事務局として参加し、計画策定に関わってきた。

今後は、この地域福祉計画を基本として、社協の地域福祉活動計画の策定を進める。

## 2 成年後見支援センター

開所から2年目となり、広報・啓発活動の効果もみられ、昨年度からの継続相談（対応）が多い状況が続いている。

また、岡谷市社協による「法人後見」の受任を開始し、担当職員を中心に継続的な相談支援を行っている。

諏訪6市町村の広域においては「成年後見制度利用促進に向けた体制整備」（中核機関の設置検討等）を進めており、8月には行政職員や専門職団体も交えた「受任調整会議」を試験的に実施し、意識や課題の共有化を図っている。

成年後見制度に対する市民ニーズの高まりが感じられるため、引き続き、広報啓発を行うとともに相談支援体制の強化を図っていく。

## 3 法人運営

新型コロナウイルス感染症対策に関して、行政や関係団体などとの情報共有を行いながら、事業の中止や延期、感染症対策を徹底したうえでの行事等の開催などについて調整を行ってきた。

中でも、総合福祉センターの運営や介護事業所の感染症予防対策については、県や他市町村、他施設の情報を取り入れながら状況に応じた対応を行ってきた。

社協の事務所においては、介護事業所も併設されており、福祉センターとして不特定的一般利用者も多く受け入れている状況にあるため、より万全の対策を講じるべく、県の補助金なども利用しながら体温感知センサーや自動消毒器、亜塩素酸の噴霧器などを一早く設置し対応を行ってきた。

また、災害時等においてスムーズな事業継続が行えるよう、職員内でチームを立ち上げ事業継続計画を策定した。

コロナ対策に追われる一年であったが、学校の消毒清掃ボランティア、市民病院応援プロジェクトなどコロナ禍のニーズに対応する新たな試みも行い、日頃の活動の大切さを見直す切っ掛けとなる一年となり、地域活動計画を策定する上で大きな経験となった。

## II 岡谷市社会福祉協議会事業推進組織・役職員体制

### (1) 役員

令和3年3月31日現在

理事会	事業推進執行機関	会長1名・副会長3名・常務理事1名・理事11名
監事	事業・会計監査	学識経験者1名・税理士1名
評議員会	議決機関	地域・各種団体代表等34名

### (2) 職員

事務局長兼常務理事	1名	居宅介護支援事業所長・訪問介護事業所長
事務局	10名	正規8名・嘱託2名
居宅介護支援事業所	6名	ケアマネージャー(正規4名・嘱託2名)
訪問介護事業所	22名	ホームヘルパー(正規5名・嘱託1名・パート16名)
おかや総合福祉センター	10名	館長(嘱託1名)・事務員兼業務員(嘱託3名・臨時6名)
ひだまりの家	7名	所長(嘱託1名)・指導員(正規1名・嘱託1名・臨時4名)
生きがいつくりデイサービス	3名	援助員(臨時3名)
結婚相談所	1名	結婚相談員(臨時1名)
日常生活自立支援事業	4名	生活支援員(臨時4名)
合計	64名	

### Ⅲ 主たる事業・会議等の開催

月	日	説 明	月	日	説 明
4月	8日	手話奉仕員養成講座（全日程中止） 諏訪ブロック社協局長・次長会議	10月	3日	共同募金運動開始(10/1～12/31) 岡谷市社会福祉大会・ふれあい祭り & ボランティア祭り（中止）
	13日	地区社協会長会監査会		7日	ハンデサポートおかやとの懇談会
	19日	コスモス成年後見市民公開講座（中止）		13日	正副会長会
	22日	地区社協役員補助金申請説明会		14日	高齢者クラブマレットゴルフ大会
	23日	BCP策定準備委員会		15日	ファミサポ提供会員研修会（全6回）
	28日	定例正副会長会（月1回）		19日	地域福祉計画（地域福祉部会）
5月	1日～	事務局職員時差出勤開始	21日	長野県老人クラブ連合会大会	
	13日	後見支援センター担当者会議	22日	地域福祉計画（障がい者部会）	
	18日	正副会長会	29日	地域福祉計画（高齢者部会）	
	28日	社協・共同募金委員会 監査会	30日	地区社協会長会との懇談会	
6月	3日	理事会（書面決議）	11月	3日	長野県社会福祉大会（オンライン配信）
	8日	諏訪ブロック社協局長・次長会議		7日	福祉バザー（中止）
	9日	正副会長会		17日	正副会長会
	11日	生きがいデイサービス援助員会議		18日	諏訪湖ハイツ秋の防災訓練
	15日	評議員選任・解任委員会（書面決議）	24日	岡谷市地域福祉支援会議	
	24日	評議員会（書面決議）	12月	16日	地域福祉計画（地域福祉部会）
30日	成年後見制度諏訪圏域関係者会議 地区社協会長会総会（中止）	17日		正副会長会	
7月	2日	生きがいデイサービス援助員会議	21日～	生活困窮者臨時相談（時間延長）	
	10日	正副会長会	29日～	生活困窮者臨時相談（当番対応）	
	13日	障害者福祉推進実行員会監査会 岡谷市地域福祉支援会議	1月	18日	岡谷市地域福祉支援会議
	15日	諏訪湖ハイツ防災訓練		21日	正副会長会
	16日	傾聴ボランティア基礎講座		29日	理事会
	17日	社協会費収納説明会	2月	4日	岡谷市後見支援センター運営委員会
	22日	BCP策定委員会 サマーチャレんじ2020（中止）		12日	地区社協会長会 市長懇談会
				22日	正副会長会
8月		社協会費収納開始（8/1～9/30）	3月	8日	ブロック社協局長・次長会議
	3日	生きがいデイサービス援助員会議		9日	正副会長会
	6日	諏訪ブロック社協局長・次長会議		4日	共同募金会審査委員会
	20日	正副会長会		15日	正副会長会
	22日	傾聴ボランティア基礎講座		23日	理事会
	28日	理事会 地区社協会長会研修会		27日	おかやボランティア連絡協議会総会
				30日	評議員会
9月	2日	地域福祉計画策定部会	【その他定例会議/毎月】 おかやボランティア連絡協議会定例会 高齢者クラブ三役会・理事会 職員（全体）ミーティング・事務局ミーティング		
	15日	正副会長会			
	26日	ふれあいの集い（中止）			
	28日	共同募金説明会			

## IV 事業の実施報告

### 基本目標 1 地域福祉活動の輪を広げる

#### (1) 福祉意識の普及

- ① 岡谷市社会福祉大会・ふれあいボランティア祭りの開催 開催中止

10月3日（土）にあいとぴあをメイン会場に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて中止を決定いたしました。

令和元年度の台風による開催中止に続き2年連続での中止となってしまった。

長野県の福祉大会は、11月3日に全プログラムをオンライン形式で行った。また他市町村でもケーブルテレビを使った開催なども実施されており、今後他市町村の事例も参考にしながら開催方法についても検討していく必要がある。

- ② 社協だより「ゆめ」の発行 年12回・全戸配布

一年を通して多くの事業、イベントが中止となってしまったが、紙面を活用しコロナ禍での新しい生活様式についてやフレイル予防などの情報や市民病院応援プロジェクトや校内消毒ボランティアの募集などコロナ禍で必要とされる情報を多く発信することができた。

- ③ 地区社協だよりの発行 13地区

- ④ 福祉教材の貸出

高齢者疑似体験セット	湯けむり（平成会）
車いす	岡谷東高等学校
アイマスク	岡谷東部中学校

- ⑤ 福祉教育の実践（体験学習会等）

6月 岡谷東高等学校	車いす体験学習会（学校独自開催）
11月 湊小学校	福祉教室の開催（全児童対象）

新型コロナウイルス感染症の影響による休校や授業内容の変更、部外者の学校への訪問の制限などにより例年のような学習会が開催できなかった。

- ⑥ 地域活動いとぐち教室の開催 開催中止

岡谷市生涯学習課との協働事業として秋に開催を予定し準備を進めていたが中止となった。

- ⑦ 社会福祉推進校事業の推進 連絡会議 中止 補助金 4校 140,000円

連絡会議を中止し通知による連絡とした。新型コロナウイルス感染症の影響もあり活動や学習機会も制限され、地域の方々や福祉の専門職との関わりなどもほとんど持てなかったと思われるが、各学校でできる取り組みを工夫するなど、市内4校から補助金申請があった。

- ⑧ ボランティア活動体験事業 サマーチャレンジ2020 開催中止

諏訪ブロック社協内で検討し、開催中止となった。

- ⑨ こどもの居場所・こども食堂

信州こどもカフェ運営支援助成金への申請 2件 計 60,000円

こども里山広場を開催する会	30,000円
（株）和が家	30,000円

## (2) ボランティア活動への支援

ボランティア登録者数	総 数	2,601名
内 訳	全市的ボランティアグループ	44グループ 2,576名
	企業ボランティアグループ	1グループ 5名
	個人ボランティア	20名

- ① ボランティア連絡協議会との連携強化 加入 団体18・個人12名

目標としていた事業が出来ない中、コロナ禍で必要とされる活動を検討し活動してきた。  
 ・医療従事者応援メッセージ・岡谷市民病院応援プロジェクト  
 ・市内学校消毒・清掃ボランティアへの協力  
 ・シトラスリボンプロジェクト

- 新規 ② 医療従事者応援プロジェクトの実施

5月 医療従事者への応援メッセージ発信  
 「実践しましょう、今一人ひとりができること！」  
 1月 岡谷市民病院応援プロジェクトの実施  
 岡谷市民病院への応援メッセージ募集 72通  
 岡谷市民病院応援募金 募金箱設置（ハイツロビー） 76,546円

おかやボランティア連絡協議会と協働し医療従事者を応援する企画を行った。  
 5月には、医療従事者を応援すると共に、今一人ひとりができることとして市民へのメッセージを発信しました。  
 1月には、第2弾として、岡谷市民病院への応援メッセージを募集し、おおくの方々から絵手紙などメッセージをいただき、市民病院をはじめ市内各所に掲示しました。  
 併せてハイツロビーに募金箱を設置し寄付金を募集するなど、市内外の多くの方々から大きな反響をいただく企画となった。

- ③ ボランティアコーディネート機能の充実・強化

各地区、市内外福祉施設へのボランティア紹介 コーディネート件数 39件  
 内容 施設での演芸活動・日本語教室への紹介・傾聴ボランティアの調整など  
 ボランティアセンター管理、整備 利用状況：15団体・個人 100回 575人

- ④ ボランティア保険の普及、加入 加入者総数 1,756名

保険内容	加入者数	保険内容	加入者数
A°ラ(社協補助あり)	860人	天災・地震補償プラン(全額負担)	51人
A°ラ(全額自己負担)	212人	天災・実施補償プラン(一部社協負担)	2人

- ⑤ 朗読講座の開催 開催中止

7月開催を予定していたが、朗読の会まどかとの検討の結果、今年度の開催を中止となった。

- ⑥ 傾聴ボランティア講座の開催 修了者 20名

7月16日・20日 模擬実習  
 8月22日 まとめ講座

令和元年度開催した講座であったが新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっていたが、7月に感染症対策を行いながら、漸く開催することができた。  
 当初予定していた施設での実習はできなかったが、傾聴みみずくによる実践形式の演習などを行い、20名の参加者が修了に至った。

新規

⑦ 校内清掃・消毒ボランティア (5月27日から実施)

ボランティア登録	49名
実施学校	4校 (岡谷田中小・小井川小・上の原小・湊小)

多くのボランティア活動が活動自粛となる中で、コロナ禍で必要とされるボランティアとして、学校、教育員会と連携を図りながら放課後の校内清掃、消毒作業の企画・実施を行った。10月中旬にはすべての学校での活動が終了となったが、多くの地域の方々の参加があり、学校と地域とのつながる切っ掛けともなる活動となった。

(3) 地区社協への支援

① 地区社会福祉協議会の充実と活動の推進

○新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いている時期には、地域に出向き、情報提供、意見交換等を行い、地区社会福祉協議会の活動を支援した。	
6月19日 今井区福祉推進員会議	6月26日 小坂区福祉推進員会議
7月3日 下六カ地区社会福祉協議会役員研修会	
○地区社協会長会懇談会	
8月28日 感染管理認定看護師の丸山貴美子氏を講師にお迎えし「新型コロナウイルス感染症の感染対策」についてご講義いただき、地区社協活動における感染症対策についての研修を行った。	
10月28日 市社会福祉課と第4次岡谷市地域福祉計画策定にあたっての意見交換を行った。	
2月12日 市長との懇談会を開催。新年度事業、第4次岡谷市地域福祉計画について懇談した。	

② 地区社協会長等視察研修 中止

新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

③ 地区社協役員研修会の開催

新型コロナウイルス感染拡大のため、研修会は中止とし、会長の交代があった地区に対し、補助金申請についての事務連絡のみ行った。

④ 地区活動助成

地区社協基盤強化助成金	21地区		2,310,000円
福祉推進員助成金	21地区	328名	3,280,000円
地域福祉活動振興事業補助金		198件	3,334,390円
友愛訪問・施設訪問	22件	会食会 0件	配食 50件
研修会・講習会開催	3件	福祉懇談会・会議棟	36件
啓発・調査	22件	世代間ふれあい事業	0件
地区社協における集いの場事業	64件	会長が認めたもの	1件

地区社協で行う各事業に補助を行い、地域福祉活動の振興を図った。コロナ収束の見通しが立たない中、各地区では人を集めての事業が軒並み中止となった。感染対策をとりながら実施できる事業として配食事業が各地で実施され、対象者への声掛け、見守り、安否確認が行われた。市社協では、各地区2回を限度とし、配食事業に対しての補助金を上乘せし、活動を応援した。

(4) 社会参加への支援

① 地区主催「敬老事業」への助成 21地区 75歳以上 9,379名 5,225,000円

② 岡谷市高齢者クラブ連合会への支援 17単位クラブ

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各種行事の中止、および内容変更を行った。  
 体力低下防止や安全な活動実施のために、感染予防対策、フレイル予防の冊子の配布、各地区の様子や活動上の工夫等の情報共有を行った。

③ 障がい者地域生活支援事業等（市受託事業）

ア 手話通訳者設置

窓口での相談・通院等	24回	市関係行事での通訳	1回（新年祝賀式）
------------	-----	-----------	-----------

イ 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

手話通訳者派遣	47件	85.25時間(通院・会議等)	通訳者数	4名
内訳 市内派遣	14件	28時間		
市外派遣	33件	57.25時間		
要約筆記者派遣	0件			

新型コロナウイルス感染拡大による影響から講演会等の派遣は少なかったものの、通院や日常生活における派遣が多く、市外からの依頼も多くなってきている。  
 講演会等が少なく要約筆記派遣は0件であった。

ウ 6市町村手話奉仕員養成講座 開催中止

エ 手話奉仕員フォローアップ講座の開催 開催中止

オ 声の広報発行事業 12回発行 10世帯利用

④ 岡谷市障害者福祉推進実行委員会による障害者福祉推進

ハンデサポートおかやなど意見を聞きながら行事の開催を検討してきましたが、市民との交流を目的とする行事がほとんどであることから、本年度のすべての行事が中止となった。  
 今後も従来どおりの開催は難しく新しい形での事業の検討が必要である。

(5) 福祉施設運営サービスの充実

① おかや総合福祉センター管理経営事業（市指定管理事業）

開館日数	温泉施設	307日	月平均	25.6日
	生涯学習施設	286日	月平均	23.8日
開館時間	温泉施設	10時～21時30分		
	生涯学習施設	9時～21時30分		
休館日	温泉施設	毎週水曜日		
	生涯学習施設	毎月第3水曜日		
入館者数	有料入館者	温泉施設（合計）	89,717名（前年比 29,018名減）	
		大浴場	80,201名（前年比 23,145名減）	
		リハビリ施設	7,284名（前年比 5,862名減）	
		福祉家族風呂	998件 2,232名（前年比 6件減 11名減）	
		生涯学習施設	4,642団体 43,588名（前年比 3,982団体減 51,880名減）	
	無料入館者	大浴場	13,794名（前年比 4,027名増）	
		生涯学習施設	863団体 8,299名（前年比 728団体減 16,256名減）	
		足湯	10,497名	
	ロビー・ヘルストロン等	43,918名		

新型コロナウイルス感染症により4月～5月の約1ヶ月の間休館や貸館の中止などの対応をとってきたが、市民生活に関わる入浴については、マスク着用や消毒、館内消毒などの徹底、窓口対応での感染防止対策を行い最小限の閉鎖期間で対応してきた。

また、体温センサーの導入や亜塩素酸の噴霧装置など導入や飲食、利用定員の制限など、行政や他の公共機関との情報共有や連携を図り、徹底した対策を行いながら運営を行ってきた。

年間の施設利用者は、前年度比49%減、収入は29%減であり、施設別では、温泉施設利用者は24%減、収入は25%減、生涯学習施設利用者は54%減、収入は40%減で利用者、収入共に大幅な減少となった。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ロビーコンサートやフリーマーケット等のイベント、プレイルームの使用を中止したが、中止している間にプレイルームの床の張替や洗面所蛇口の自動化など感染症予防対策を行ってきた。

## (6) 福祉活動の基盤整備

### ① 地域サポートセンター設置促進体制整備事業

岡谷市と共に打ち合わせを重ね、ネットワーク会議の開催を検討してきたが、コロナウイルスの影響もあり今年度はネットワーク会議の開催には至らなかった。

本年度、各地区を訪問し各区のセンターに対する考え方や状況などを聞かせていただくことができた。各区の実情に合わせたサポートセンターの実現に向けて、今後も生活支援体制整備事業と一体となって進めていく。

## 基本目標 2 福祉サービスの利用を促進する

### (1) 情報提供の充実

#### ① ホームページ、フェイスブックによる情報掲載

### (2) サービスの提供

#### ① 日常生活自立支援事業の推進（県社協受託事業）

	相談内容	認知高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	対象外
相談件数	問合せ	7件	4件	6件	1件	0件
	初回相談	27件	17件	14件	0件	-件
	相談援助	1,121件	1,035件	1,675件	0件	-件
	計	1,155件	1,056件	1,695件	1件	0件
契約	本年度契約件数 12名 (内 生保 3名 管内町村 0名)			事業開始からの契約件数	297名	
解約	本年度解約件数 14名 (内 生保 2名 管内町村 0名)			事業開始からの解約件数	218名	
実利用者数	79名					
訪問調査回数	延べ 134回 (対象者 4名)					
利用援助回数	延べ 3,694回 (対象者 79名)					
書類等預かり	基幹的社協	76件 管内市町村		1件	計 77件	
ケース検討会議	対象者	19名		延べ	85回	
支援員連絡会議	0回					

下半期の相談件数が例年より多く、若年層や多額の借財があるケースの相談が目立つ。

電子決済に関するトラブルが増加しているが、本サービスだけでは防ぎきれないため、対応に苦慮している。

また、こちらの指導や注意が聞き入れられず、状況が悪化するケースも見受けられるため、関係機関との連携がより一層重要となる。

② 金銭管理、財産保全サービス事業の推進（市社協単独事業）

契約件数	解約件数	実利用者数
2名	2名	8名

③ 岡谷市成年後見支援センター（市受託事業）

新規相談件数	22 件	継続相談件数	397 件	相談者（実人数）	137 名
相談件数合計	419 件	内完了件数	247 件	内継続件数	172 名

法人後見の状況	現在の後見人等の受任件数	2 件
---------	--------------	-----

対象者別	認知症	194 名	相談内容	問合せ・相談	119 件
	知的障がい	47 名		申立て支援	23 件
	精神障がい	174 名		継続支援	269 件
	その他	4 名		家裁への手続き	1 件
				法人後見受任	7 件

【相談者機関別】※件数の多いものから上位5項目（ ）は、全件数に占める割合

- ・ 本人 109件（26.0%）
- ・ 親族・家族 72件（17.2%）
- ・ 介護施設の関係者 53件（12.6%）
- ・ 行政（市内）※岡谷市包括含む 50件（11.9%）
- ・ ケアマネジャー（介護） 38件（9.1%）

※その他、医療機関の関係者、障がい相談支援専門員、司法関係者等からの相談があった。

<p>【主な会議・打合せ・研修等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諏訪圏域 成年後見受任調整会議（モデルケースによる試験実施）</li> <li>・ 諏訪圏域自立支援協議会 全体会議への出席</li> <li>・ 「成年後見制度」「後見センター」関連の研修会等への参加 計2回</li> <li>・ 諏訪地域3後見支援センター打合せ、諏訪6市町村との協議 計10回</li> <li>・ 出前講座、勉強会等への講師派遣 計1回</li> <li>・ 「センター運営委員会」の開催 計3回</li> </ul>
--

(3) 福祉の相談窓口の充実

① 福祉総合相談（心配ごと相談） 常設／職員対応

利用者数	8名（男性2名・女性6名）
取扱件数	13件（生活困窮・貸付に関する相談件数は別に記載）

相談内容としては、新型コロナウイルスの影響による貸付の相談がほとんどとなっている。報告として記載されていませんが、日常生活自立支援事業や介護・障害サービスの利用者などから昼夜を問わず電話や訪問による相談が非常に多く寄せられており、職員が日々その対応に追われている。

② 結婚相談事業

開設日	毎月第2・4火曜日、第1・3土曜日 10：00～16：00（予約制）							42日開所	
平均相談数	火曜日	土曜日	1日あたり	前年比	実相談者数	前年比	新規登録者数	前年比	
内	男性	0.3	1.0	0.6 名	0.1名増	27 名	25名減	6 名	13名減
	女性	0.3	0.5	0.4 名	0.1名増	17 名	8名減	6 名	3名増
訳	親族	0.3	0.7	0.5 名	増減なし	20 名	24名減		
合計	0.9	2.2	1.5 名	0.2名増	64 名	57名減	12 名	10名減	
電話・メール等対応			153 件	191件減					

登録者数 3/31現在	男性 24名 女性 9名	計 33名	1名減	お見合い件数 カップル成立	6件 3組	2件減 増減なし
----------------	-----------------	-------	-----	------------------	----------	-------------

相談員の体制と前年度までの相談実績を踏まえ、相談日を大幅に変更した。毎週の平日の相談日を隔週とし、利用の少なかった夜間相談日の廃止、事前の予約制とした。

4月、5月はコロナウイルスの影響による諏訪湖ハイツ利用自粛に合わせて相談所も閉所とした。

相談所開所日を減らした事により相談者数、新規登録者数が大幅に減少したが女性登録者が多かったため、お見合い件数も例年並みとなり、その内1件が入籍の予定となっている。

また、昨年度定員が集まらず開催できなかったハートリーフ事業については、当面の間中止とし、長野県のマッチングシステムについても当面の間登録を見合わせています。

## 基本目標 3 住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるようにする

### (1) 地区社協との協働による福祉活動の実践

#### ①地区社協活動の実践

##### 配食事業

今井・間下・岡谷・下浜・小尾口・新屋敷・小口・西堀・小坂・花岡・三沢・新倉・駒沢・鮎沢・橋原・東堀・中屋・中村・横川

##### 会食事業

新型コロナの感染拡大により各地区で中止となった。

##### 地区社協における集いの場事業

新屋敷・小口・小井川・下浜

##### 世代間ふれあい事業

新型コロナの影響で行われず。

##### 友愛訪問・施設慰問事業

今井・岡谷・小尾口・下浜・上浜・西堀・新倉・駒沢・鮎沢・橋原・東堀・中屋・横川

地区社協で行われている事業に対し助成を行っているが、財源の確保が難しくなっている。今後も事業の在り方や助成の仕方、新たな財源の確保などについて検討が必要である。

#### ② 地区福祉ニーズ対応事業（福祉推進員設置事業） 福祉推進員総数 328名

今井25名・間下22名・岡谷20名・下浜11名・小尾口6名・上浜18名・新屋敷11名・小口17名  
小井川28名・西堀16名・小坂8名・花岡19名・三沢31名・新倉12名・駒沢5名・鮎沢5名  
橋原6名・東堀30名・中屋18名・中村5名・横川15名

福祉推進員については、各地で新たな担い手不足などの問題も出てきている。

また、各区での活動内容も様々となってきており、改めて「福祉推進員の活動について」基本的な考え方を地域に伝えてきた。

#### ③ 地域支え合い会議 各地区社会福祉協議会で開催 12回

自分たちの住む地域の気になることなどを気軽に話し合える機会として各区での開催を推進している。

## (2) 高齢者・障がい者在宅サービスの充実

### ① 岡谷市生活支援体制整備事業（地域支援コーディネーター）

- ・区、地区社協、地域活動等への訪問 計14回
- ・生活支援体制整備事業についての岡谷市との打合せ会議 計8回
- ・ＣＬＣ橋本さん次年度「お宝探し講座」打ち合わせ
- ・諏訪ブロック生活支援コーディネーター連絡会（1/20）
- ・地区社協懇談会への参加 計2回

地域への訪問や研修会が制限される中、コロナ禍でもできる活動を検討してきた。新しい生活様式の冊子やフレイル予防のパンフレットなどの作成を行い地区社協の配食や生きがいデイの援助員による声掛けなど出来る活動の支援を中心にしながら、外部講師を交え「お宝探し講座」開催の準備を整えてきた。

また、市内の家事援助などの情報をまとめた「暮らしのサービス紹介」を発行し、民生委員さんなどへの配布を予定している。

### ② 生きがいデイサービス事業（市受託事業）

**援助員92名**（内訳 地区活動援助員 88名 市社協援助員 4名） ※令和元年度援助員91名  
地区活動援助員88名（内訳）今井区16名・間下区18名・岡谷区12名・下浜区2名・小尾口区 1名  
小口区 1名・小井川区 7名・西堀区9名・駒沢区 4名・橋原区 7名・中村区 5名・三沢区 2名  
東堀区 4名

名 称	会 場	参加人員	グループ数	延回数
いきいきデイ今井	今井区公会所 今井区民センター	41名(男12名・女29名)	3グループ	36回
いきいきデイ間下	間下区民センター	45名(男1名・女44名)	5グループ	39回
いきいきデイおかや	岡谷区公会所	33名(男1名・女32名)	3グループ	9回
すこやかデイ下浜	下浜区民センター	6名(男0名・女 6名)	1グループ	3回
いきいきデイ小尾口	小尾口区公民館	6名(男0名・女 6名)	1グループ	16回
いきいきデイ上浜	上浜公民館	13名(男0名・女13名)	2グループ	30回
いきいきデイあらやしき	新屋敷会館	16名(男3名・女13名)	2グループ	14回
いきいきデイ小口	小口区民センター	16名(男0名・女16名)	2グループ	29回
いきいきデイ小井川	小井川区民会館	51名(男7名・女44名)	6グループ	98回
いきいきデイ西堀	西堀公会所	208名(男54名・女154名)	19グループ	203回
ふれあいプラザみなと(小坂)	小坂公民館	10名(男0名・女10名)	1グループ	15回
ふれあいプラザみなと(花岡)	花岡区民センター	10名(男1名・女9名)	1グループ	15回
いきいきデイつるみね	三沢区コミュニティ施設	14名(男0名・女14名)	2グループ	30回
いきいきデイ新倉	川岸公民館 夏明公会所	29名(男3名・女26名)	3グループ	46回
いきいきデイ駒沢	駒沢区公民館 荻山会館	18名(男0名・女18名)	2グループ	9回
いきいきデイ鮎沢	鮎沢区公民館	8名(男3名・女5名)	1グループ	3回
いきいきデイ橋原	橋原公会所	9名(男3名・女6名)	1グループ	10回
いきいきデイしばみや	柴宮館 権現コミュニティ会館	46名(男21名・女25名)	4グループ	26回
いきいきデイ中村	中村区民センター	27名(男0名・女27名)	3グループ	39回
いきいきデイ横川	横川公会堂	25名(男0名・女25名)	3グループ	45回

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、4月（2月末からいきいき休止）引き続き開催が見合わせられた。6月援助員会議で感染管理認定看護師の丸山貴美子様を講師に迎え、「生きがいデイ」の再開に向けて勉強会を行い、7月から感染防止対策・準備が整った地区（グループ）から再開となった。「・・・でも、心配。」と再開できないグループもあり、年間の開催回数も少なくなっていました。利用者さんからの「いきいき楽しみ」というお声に、今後も継続していかれる事業になるように検討を重ねていきたいと思っております。

活動休止の間に各援助員を通じ、フレイル予防など情報提供を行うと共に声掛けを積極的に行った。

③ まゆっこサポート（住民参加型有償在宅福祉サービス事業）

家事援助サービス	登録協力会員	登録利用会員	年間実利用者数	年間実働協力会員数
	15名	18名	17名	8名
			年間延べ利用時間	対応延べ回数
324時間	316回			

会員相互の助けあいの仕組みとして、家事援助（買い物、掃除等）を行った。  
 新型コロナの緊急事態宣言を受けて、4月末～5月いっぱい活動休止とし、6月から感染対策を行いながら再開した。

④ ふれあいいきいきサロン事業

登録グループ数	会員数	延べ活動回数	延べ参加者数
7グループ	164名	59回	716名

新型コロナの影響で4月、5月はどの団体も活動を休止していたが、6月以降は、飲食を行わない等の感染対策を行いながら各団体の判断で活動を再開。1年間休止とした団体もあった。

⑤ 車いす移送車レンタカー事業 2台使用 利用者 13名 66回

⑥ 車いす貸出し事業（介護保険適用以外） 個人37名 37台 ・ 1団体 8台

⑦ 福祉機器リサイクル事業 譲受 6件 譲渡0件  
 ポータブルトイレ・介護用ベッド

⑧ 資機材等貸出サービス

ポッチャ	24 件	ポータブルマイク	3 件
プロジェクター・スクリーン	1 件	遊具等	20 件

高齢者クラブや障がい団体などでのポッチャや遊具の貸出が多く、大変喜ばれている。

(3) 子育て支援サービスの充実

① 育児ファミリーサポートセンター事業（保育/市受託事業）

会員登録状況

提供会員	18名	新規登録 1名、退会 2名
依頼会員	33名	新規登録 8名、退会 23名

活動状況

利用件数	77件	利用時間	121.5時間	年間実利用者数	7名
				年間実働提供会員数	6名
預かり内容	保護者受診時の預かり、保護者の習い事中的預かり 保護者産後のため、保育園への送迎 保護者幼稚園行事参加のための預かり				

提供会員を対象とした研修会を開催し(6回)、サービスの向上を図った。

② まゆっこサポート事業（団体保育）

団体保育サービス	託児数	対応件数	延べ協力会員数	延べ活動時間
	利用団体 3団体			
	就学前 129名			
	就学児 0名			
67件		107名	190.5時間	

※協力会員は、育児ファミリーサポートセンターの提供会員を兼ねる

新型コロナの影響で、保健センター、こどものくにでの託児は年間通して全てキャンセルとなった。シンコースポーツ、スポーツ協会の体育館での託児は、託児人数の制限、感染対策を講じたうえで、10月から再開した。

③ 児童遊園地の新設、遊具等の整備助成事業

今井区・小井川地区社協・三沢区・東堀地区社協・横川地区社協
-------------------------------

(4) 安全・安心な市民生活をサポートするサービスの充実

① 生活困窮者サポート事業

ア 貸付に関する相談

相談件数（本人来所、窓口対応）	357件
-----------------	------

② 助け合い資金貸付事業（市社協単独事業）

貸付人員	16名 17件	340,000円
償還取扱件数	23名 52件	333,500円
償還未納金額	29名	633,000円

生活保護受給のつなぎ資金を中心に貸付を行った。また、緊急小口資金をはじめ生活福祉資金の支給までのつなぎなどの貸付が多くなっている。

③ 生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業） 341名 97,179,000円

福祉費住宅転宅費	2名	419,000円
福祉費教育費	1名	270,000円
緊急小口資金	4名	380,000円
緊急小口資金（コロナ特例）	186名	26,090,000円
総合支援資金（コロナ特例）	109名	53,760,000円
総合支援資金延長（コロナ特例）	30名	12,230,000円
総合支援資金再貸付（コロナ特例）	9名	4,030,000円

令和2年3月から緊急小口資金の貸付が開始されたが、度重なる貸付期間延長を受け1年を通して貸付を行った。

外国人の相談者も多く日本語以外で対応することもあった。

また緊急小口資金の貸付だけでは足りず総合支援資金の貸付や再延長といったケースも非常に多くなり、貸付だけでは解決できない困難なケースも増えてきているため、行政や関係機関との更なる連携が必要である。

④ フードバンク等の活用

7月12日から2週間に渡り、県社協などの呼びかけに対し食料の寄付募集をおこなった。

募集期間以外も含め米、野菜、缶詰、調味料など8件の寄付をいただき、貸付相談者などの希望者に配布した。

## 基本目標 4 社会福祉協議会の基盤を強化する

### (1) 組織の強化

#### ① 新たな事業展開についての調査研究

行政の地域福祉計画策定への参画をし理解を深めるとともに次期地域福祉活動計画策定に向けて将来を見据えた事業展開について研究した。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動自粛や行事の中止など余儀なくされ、新たな事業展開や既存の事業についても見直しをするなどの機会も多くあり、次年度活動計画を策定していく際などへの大きな参考となった。

#### ② 職員体制の強化

行政との協議を行い同一労働同一賃金に向けた取り組みとして嘱託・臨時職員に対し賞与の支給を行った。

また、今後の職員体制を見据え新たな人材の確保に向け取り組みとして、キャリアパスの導入及び処遇改善を行う決定をした。

新規

#### ③ 役員体制の強化

ガバナンス強化を図るため、役員定数の見直し及び役員報酬の是正を決定した。

#### ④ 社会福祉協議会職員の研修

定期的に職員会議を開催し社協事業などについて情報の共有を行ってきた。

その中で各事業所の代表者により災害時とうに備えBCP（事業継続計画）の策定を行った。

#### ⑤ 地域福祉活動の点検・評価

今年度、目標としていた事業の多くが中止となったり、形を変えての実施となるなど担当職員だけでなく多くの職員により事業の点検・評価をする良い機会となったと捉えている。

#### ⑥ 会員の増強

各地区を訪問する中で、区に入らない世帯や、地域の活動や社協の存在についても認知していない世帯などが非常に多くなってきていることを感じている。

コロナ禍での生活困窮者への対応や貸付などセーフティーネットとしての社協の存在意義が増してきている今、社協の活動を広く市民周知していくことが今後の会員増強に繋がるものと考えている。

#### ⑦ 諏訪ブロック内各社協との連携強化

本年度は、局長・次長会議とWebによるボランティア担当者会議のみの開催となりブロックでの開催行事は、大人数であり飲食等も含むためすべての行事が中止となった。

会議では、新型コロナウイルス感染予防の対策の状況、事業への影響、今後の事業運営などについても互いに情報共有を行った。

### (2) 財源の強化

#### ① 岡谷市社会福祉協議会会費

収納状況

一般会費(1世帯 1,000円)	9,493件	9,480,800円(前年度 9,285件 9,262,650円)
賛助会費(1口2,000円以上)	3,794件	7,869,500円(前年度 3,397件 8,194,500円)
合計	13,287件	17,350,300円(前年度 13,222件 17,457,150円)

前年比 65件の増 106,850円の減

新型コロナウイルス感染症の社会的な影響を考慮し、会費納入について検討してきた。  
例年より1ヶ月送らせて開始しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響はほとんど見られず例年並みの実績であった。

前年比で件数は増加していますが、賛助会員から一般会員への移行が多く収入は減少した。

② 赤い羽根共同募金運動

募金方法	件数	実績額(円)	備考
戸別募金	11,992	12,565,150	
街頭募金	1	116,558	
法人募金	515	2,004,000	
学校募金	6	36,654	小学校 4・中学校 2
職域募金	5	905,638	
イベント募金	5	103,874	
個別募金	0	0	
その他の募金	16	313,721	
合計	12,540	16,045,595	前年度13,028件 16,204,612円

前年比488件の減 159,017円の減

前年度、共同募金の地区への還元金の在り方について、区長会や各区を訪問し内容の説明を行ってきた、今年度より向こう3年間の還元金を過去の実績に基づき固定して配分し、今後共同募金の配分金の適正化を図っていく。

③ 岡谷市社会福祉協議会基金及び積立金 269,145,521円

福祉基金	251,713,527円	準備基金	7,949,486円
ボランティア及び災害活動者遺児育英資金		9,482,508円	
経営安定化積立金		30,662,533円	

④ 福祉基金の受付 13件 1,005,001円

遺志金	4件	350,000円
福祉基金	9件	655,001円

⑤ 物品寄付の受付 47件

使用済み切手	31件	米・野菜・食料品	6件
介護用品	2件	マスク	2件
毛布・タオル類	2件	衣類	2件
日用品・雑貨等	1件	歩行器	1件

## V 介護保険・障害福祉サービス事業実績報告

岡谷市社会福祉協議会では、「居宅介護支援事業所(ケアマネージャー)」、「訪問介護事業所(ホームヘルパー)」、「就労継続支援B型事業所(作業所)」の3つの事業所において、介護保険、障害福祉サービスを展開している。

各事業所利用者の確保、収入増の方策を講じ、全体として経営状況は上向いてきている。

新型コロナウイルス感染拡大の中、年度当初はマスクなど感染予防の装備品の不足が続いたが、県から支給されるものでの対応、早めの発注により確保に努め、十分な感染予防対策を図り、利用者に不便をかけないよう事業を継続した。

長野県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業を活用し、事業所の環境整備、職員の支援を行った。

### (1) 居宅介護支援事業所

#### ① 事業実績

##### ア 居宅介護支援事業（介護支援専門員による支援計画策定等）

介護区分	延べ人数	月平均	前年比（月平均）
要介護1・2	1,180名	98名	前年同
要介護3・4・5	334名	27名	9名減
合計	1,514名	125名	8名減
介護支援専門員1人当たり（常勤換算4.5名）		28名	前年同
新規契約者数	18名	契約解除者数	23名

##### イ 総合事業支援業務（市受託事業）

介護区分	延べ人数	月平均	前年比（月平均）
要支援1・2	226名	33名	15名減
介護支援専門員1人当たり（常勤換算4.5名）		4名	2名減
新規契約者数	6名	契約解除者数	0名

昨年度末に1名、5月に1名、12月には障害の相談支援専門員を兼務していた1名と職員の退職が続き、担当利用者を現任職員への割り振り、他事業所への移管、総合事業については一部地域包括支援センターへお返しする対応を取ったため、事業所全体としての利用者数は減少しているが、ケアマネージャー1人あたりの担当人数は増加となり、負担は増加している。

そうした中、利用者、家族の要望に応えられるよう、全体の利用者数、一人あたりの業務量を考慮しながら、できる限り新規利用者の受入れを行った。

年度当初より特定事業所加算を算定し、収入の確保を図るとともに、職員間の情報共有、地域包括支援センター、事業所等との連携を図ることにより、より質の高い支援の提供に努めた。また、新型コロナウイルス感染症対策緊急包括支援事業を活用し、職員1人に1台携帯電話を貸し、常時連絡が取れる体制を整備した。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、基準緩和に従い、関係者が一堂に会する会議等は可能な限り避け、事業所への照会等で対応したが、利用者に不便をかけないよう事業所等関係者との連携をしっかりと図った。

##### ウ 特定相談支援事業（障害福祉サービス等利用計画策定等）

利用者数	前年比	計画作成数	前年比	継続支援回数	前年比
68名	14名減	86件	16件増	253件	31件増
新規契約者数		14名	契約解除者数		30名

##### エ 障害児相談支援事業（障害福祉サービス等利用計画策定等）

利用者数	前年比	計画作成数	前年比	継続支援回数	前年比
16名	11名減	23件	10件減	56件	16件減
新規契約者数		2名	契約解除者数		13名

12月末に、職員が1名退職となり、相談支援専門員1名の体制となった。  
 担当利用者については、現任職員への割り振り、他事業所への移管する対応を取ったため、  
 昨年に比べ減少となった。

新規利用の希望は続いており、ニーズに応え、介護保険事業も含め、事業が継続できるよ  
 う、将来を見据えた人材の確保、運営体制の強化を検討していく。

② 定例会 新規利用者の状況、日程確認等情報共有の場として週1回開催

③ 研修会の開催・参加

毎月1回、ケース検討を中心とした勉強会の開催

主任介護支援専門員研修に参加（オンラインでの参加）

県、諏訪広域連合等関係機関主催の研修会に参加（オンラインでの参加）

## (2) 訪問介護事業所

① 事業実績

ア 訪問介護事業

利用者数（要介護1～5）		月平均	前年比	
		40名	6名 増	
新規利用者数		26名	3名 増	
※月平均				
サービス区分	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
身体介護	245回	17回 減	153時間	51時間 増
身体・生活	226回	78回 増	279時間	92時間 増
生活援助	285回	3回 増	249時間	7時間 減
乗降介助	1回	前年同	1時間	前年同
自費利用	15回	2回 増	16時間	前年同
合計	772回	66回 増	698時間	136時間 増

イ 総合事業

利用者数(事業対象者, 要支援1・2)		月平均	前年比	
		20名	4名 減	
新規利用者数		8名	1名 増	
※月平均				
サービス区分	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
サービスA	3回	2回 減	2時間	前年同
訪問型独自Ⅰ	47回	1回 増	45時間	6時間 増
訪問型独自Ⅱ	44回	29回 減	38時間	15時間 減
訪問型独自Ⅲ	30回	7回 増	30時間	8時間 増
合計	124回	23回 減	115時間	1時間 減

ウ 障害福祉サービス

利用者数		月平均	前年比	
		59名	13名 増	
新規利用者数		11名	3名 増	
※月平均				
総合支援給付	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
重度訪問介護	0回	前年同	0時間	前年同
身体介護	60回	7回 増	61時間	9時間 増
家事援助	159回	10回 増	156時間	前年同
通院介助	24回	16回 増	24時間	16時間 増
行動援護	1回	1回 増	1時間	1時間 増
同行援護	34回	10回 増	55時間	9時間 増
移動支援	28回	1回 増	22時間	7時間 減
自費利用	43回	11回 増	12時間	前年同
合計	349回	56回 増	331時間	28時間 増

② ミーティング 連絡事項、利用者情報共有の場として月1回開催

③ 研修会の開催・参加

介護技術、接遇等毎回テーマを設け勉強会を月に1回開催

県、介護福祉士会等関係機関主催の研修会に参加（オンラインでの参加）

④ 実習生の受入

長野県福祉大学校 3名

三幸福祉カレッジ 3名

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、訪問介護において、利用者の安全が最も重要と考え、かつ職員の安全も確保して、いかに感染を予防し、サービスを提供するか、皆で話し合い、見直しを重ねながら、普段の感染予防対策から、訪問時の利用者の体調確認、留意点等をまとめた「感染予防マニュアル」を作成し、これを職員全員の共通の指針としてサービス提供にあたった。また、消毒用アルコール、マスク、手袋、ガウン等の装備品についても、県から支給されるものも含め確保し、適切に装着し、十分な新型コロナウイルス感染予防対策を徹底した。更に、コロナ禍でのサービス内容、回数についてケアマネージャーと連携し、再度検討するなど、利用者に安全かつ安心して利用いただけるよう努めた。

そうした中においても、可能な限り利用希望に応えるべく積極的に新規利用者の受入れを行い、サービス提供回数、時間ともに増加となり、収入の増につながった。

新型コロナウイルス感染症対策緊急包括支援事業では、携帯電話をパート職員を含め全員に貸与し、常時連絡が取れる環境と、ICT活用の基盤整備の第一歩とした。

身体介護を希望するケースの増加、希望するサービス提供の時間帯が重なっていることにより、対応できる職員に限られ、負担が大きくなっているという現状があり、安定して事業を継続するため、今後も人材育成と新たな人材を確保、効率化などサービス提供体制の整備に力を入れていく。

### (3) 就労継続支援B型事業所「ひだまり作業所」

① 事業実績

開所日時	週5日(月～金) 9:00～15:00
開所日数	242日
延べ年間通所者数	3,303名 (見学・お試し利用人数等除く)
1日平均通所者数	13.6名 (前年比 1.0名減)
年間在籍通所者実数	24名(男性 16名 女性 8名)
市町村別内訳	岡谷市 20名 下諏訪町 3名 諏訪 1名
令和2年度新規通所者	4名(男性 2名 女性2名)
令和2年度退所者	6名(男性 4名 女性2名) A型移行 女性1名 就労移行支援に移行 男性1名 体調不良 男性3名 再婚 女性1名
令和2年度通所希望見学者	6名 / 延べ体験日数 42日
令和2年度開催行事	新型コロナウイルス感染拡大のため6月までは行わず、7月よりテイクアウトを主とした行事を開催。アイス会、クレープ会、カラオケ、ハンバーガー会、昼食会(忘年会、新年会)等(感染対策を徹底した上で開催)

② ミーティング 連絡事項、利用者支援に関する情報共有等、月1回開催

進行状況等の共有

③ 研修会の開催・参加

嘱託医、行政職員にも参加いただき、連絡会を開催 年3回

新型コロナ感染拡大のため多くの研修会が中止となる中、11月 地域生活支援研修会12月 社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症の発生及び拡大防止等に係る研修会に参加した。

令和2年度は、就労継続支援A型や就労訓練等に移行出来た利用者が（男性1名、女性1名）2名、体調不良や高齢、結婚等で退所した利用者が4名いた。体調不良では利用者間の対人関係から長期で休む利用者もあり、延べ平均利用者数はかなり減少した。

コロナの影響で主流としていた受注業務（りんごの芯取り、ウエス切り、箱折り等）の仕事がない時期があり、新しく精密の作業を受注開拓し、手作りマスク製作や諏訪湖ハイツの草取り等により収益確保に努めた。

#### (4) 障害者地域活動支援センター「ひだまりの家」管理運営 (市受託事業)

開所日時	週5日(月～金) 9:00～15:00
開所日数	242日
定員	10名
延べ年間通所者数	769名 (前年比 14名減)
1日平均通所者数	3.2名 (前年同)
年間在籍通所者実数	14名 (男性 4名 女性10名)
新規通所者	0名
通所希望見学者	5名 延べ体験日数8日
行事等	ひだまり作業所と同時開催

令和2年度は、延べ年間通所者数、通所希望見学者数が減少し、新規通所者はいなかった。延べ通所者数の減少の要因は、定着している利用者が、新型コロナウイルス感染を恐れ長期で来所できなかったり、就労継続支援A型にステップアップした等である。

見学体験者数の減少、新規利用者がいなかった要因は、コロナ禍の状況や見学後に体験しても対人関係に強い不安を感じてしまい、体験の継続ができない等である。

今後、より一層の地活の周知と、体験後の新たな支援方法の検討が必要である。